

第 59 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ：樹林環境の順応的管理—

3月の研修会は、先月に引き続き園内の樹林地の順応的管理として、常緑低木の間伐や落ち葉かきを行いました。



座間谷戸山公園に向かう途中、道端でつくしを発見しました。まだ寒さの残る3月後半でしたが、春はすぐそこまで来ているんですね。



今回は初めに、講師の石川先生がお住まいの山梨県芦川村から、昔から使われている熊手やほうき等の道具を持ってきて見せてくれました。

山にある身近な材料をうまく加工して、
どれもよく作られていました。



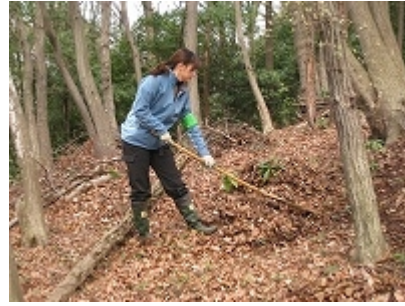
熊手は、公園で使っているものよりも隙間が広くできていました。こうなっていると、余計なものは引っ掛からず、落ち葉だけがまとまりやすく、非常に使い勝手の良いものでした。



そして作業前にもう一つ。自然の維持管理作業には、作業後のモニタリングがとても大事です。今回はモニタリングという程ではありませんが、前回の落ち葉かき後の林床を観察しました。



まだあまり変化は見られませんが、ちょっとだけ芽を出しているものがありました(写真左)。これはモミジイチゴという種で、生長するとモミジのような葉を付けるキイチゴの仲間(写真右)です。けしてモミジの仲間ではありませんよ。



さて、観察が終わったら作業開始です。
前回と同じように、まずは枯れ枝を拾い、その後、熊手で落ち葉をかいていきます。



かいた落ち葉は、間伐材で作った
落ち葉貯めに入れていきます。



この地点は一見明るく見えますが、落葉樹が
これから葉を出すとだいぶ暗くなりそうですね。
その隙間を縫って入った光りが少しでも林床まで
届くよう、落ち葉かきの作業が必要となります。



お昼を挟んで午後は環境に関する記事の発表からスタート。今回は間伐材の有効利用についてもみんなで意見を出し合ってみました。



午後の作業場所へ行く途中、毎年きれいな花を咲かせているニリンソウの群落を見ました。今年もしっかり春の訪れを教えてくれていました。



午後はもともと植林地だった樹林で間伐作業を行いました。ただ、数日前の強風で折れた枝がそこかしこに落ちていて、まずは枝拾いからのスタートでした。



ある程度間伐作業をしたあと、今回は早めに切り上げ、
出た間伐材を利用して皆それぞれ好きなものに加工作ってみました。
石川先生も必死に何かを作っています。右の写真はお箸でしょうか？



時間や道具に限りがあったため、今回はあまり
色々なものはできませんでしたが、こういった
工夫が間伐材の利用につながれば、樹林の
維持管理がもっと活発に行われ、豊かな森が
増えていききっかけになるかもしれませんね。

これで **2009** 年度の研修会が終了しました。

4 月からはこの研修会も **6** 年目に突入します。今後も、現場でビオトープについて学べる研修会
として、充実した内容をご提供していきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。